□6月29日説教(隅野徹牧師)短縮版「すべての民が
神に感謝をささげるように」(詩編67:1～8)

詩編67編で最も印象的な言葉は7節です。「大地は作物を
実らせました」という言葉の背景には、ユダヤの人々が大変な
思いをした捕囚からの解放があると言われています。やっとの
思いでパレスチナ地方へ戻って落ち着き、作物が実った。その
感謝を述べています。

それとともに8節には、再び戦乱状態になって大地が荒され
たり、収穫が出来なくなるということが起こりませんように、とい
う願いも込められているのではないかと、今回私には示されま
した。

今日は特に、この後納骨式を執り行う柳井一熊さんの生涯の
歩みを心に留めてメッセージを語らせていただいています。田
万川の豊かな自然の中で生きてこられた一熊さんは、人間の
力を超えた、自然の力を感じておられたのではないかと私は想
像しています。大自然の中で農業を行う…それは時には日照り
があったり、大雨や台風があったりします。だからこそ謙って、
自分を超えた大いなる力に助けを求めて祈ったご経験があっ
たのではないかと…そう思っています。そういう人間の有限性の
悟りが、お子様たちの神を求める思いにつながったのではない
かと、そのような想像が浮かんできました。

大地と向き合う中で何か大切なことを感じ、そして人生を導か
れた柳井一熊さんを覚え、私たちも詩編67編7節8節の祈りを
自分の祈りとして、ささげてまいりたいと願います。

環境破壊また人間の強欲によって、神が授けて下さった大地
の作物の実りが脅かされている今の世の中です。そして世界の
対立や戦乱もまた、食糧の確保に大きな影を落としています。
だからこそ世界の人々が創造主、救い主を知ってへりくだるこ
とによって平和が保たれ、そして豊かな自然のもとで、神からの
食べ物の恵みを得ることができるよう、どうぞ共に祈って参り
ましょう。(終)